

〔優秀賞〕

◇ 性別にとらわれない社会へ ◇

吾妻小学校 6年 高橋 和奏

昔は、「男性は仕事をし、女性は家事をする」「男の子は青色、女の子は赤色」などと様々な場面で男だから、女だからと、自分の意思ではなくイメージで決めつけられてしまうことがあったそうです。今でも、改善されつつありますが、まだイメージが残っている人もいます。

私は、チアリーディングのチームに入っています。チアは女の子がするものというイメージがある人が多いと思いますが、私のチームには男の子もいます。男の子は女の子に比べて力がある人が多いので、男の子だからこそできる技もあり、演技に迫力が出たりします。また、練習の準備でマットなどが必要なときに手伝ってくれます。そのおかげで練習を早く始めることができるととても助かります。さらに、最近では、男性だけで結成されているチームもあります。最初は、チアなのに男性なのとおどろく人もいますが、私はチアは女の子がするものというイメージをくつがえし、とてもカッコいいパフォーマンスをされていてすごいなと感動しました。

また、私の母は仕事で帰りが遅くなる事が多く、どちらかといえば料理が苦手な方なので、料理が得意な父が夜ご飯を作ってくれます。そのおかげで、私は、早くご飯を食べることができ、母も帰ってきてからすぐご飯を食べる事ができています。人は、得意な部分や苦手な部分がそれぞれ違うので、性別関係なく、お互いにカバーし合っていく事が大切なのではないかと思っています。

さらに、男女共同参画社会についてインターネットで調べてみると、職業のジェンダーギャップというものが出てきました。ジェンダーギャップが大きい職業を調べてみると、歯科衛生士や保育士、看護師などだと分かりました。母によると、昔は、看護師の事を看護婦と呼んでいたそうです。その事を聞いて、とてもおどろきました。今では、男性の看護師も、女性の看護師もいるのが当たり前だけど、昔は、なぜ女性だけだったのだろうと疑問に思いました。調べてみると、日本では、長い間患者を世話する看護行為は女性が行うというイメージが定着していたからだと書いてありました。やはり、イメージがあるとなかなかそのイメージを変えるのは難しいのだなと感じました。また、看護婦が看護師という名前に変わったように、もっと多くの職業を男女関係なくできるようになればいいなと思いました。

このように、男女ともに協力することでメリットがたくさんあります。ですから、女性だけがするもの、男性だけがするものというイメージにとらわれず、それぞれの個性を生かして活やくできる社会になってほしいなと思います。そのために、今の自分にできる事を考え行動に移し、少しでも男女共同参画社会に近づくようにしていきたいなと思います。